

## 平成27年度事業報告概要（重点目標）

### （1）基本的な考え方

27年度は、社会福祉法人の認可を受けて、法人の資質を高め、社会的信頼を高めるため、以下の事項に留意し運営に努めてまいりました。

◎法人の体制を整えるため、コンサルティング会社へ業務委託しバックアップ体制を強化しました。客観的、専門的なアドバイスや支援のもと法人全体の安定的な運営体制づくりを図りました。

◎第三者委員の活動の普及・定着を図りました。「第三者委員規程」の検討、苦情やヒヤリハット等の報告会および試行的に家族や職員との模擬面談等を実施しました。

◎就業規則等労働基準監督署に提出が必要な規程について、社会保険労務士のサポートのもと法令に沿って見直し整備を行い、職員の就労環境の改善を図りました。

◎利用者や家族のニーズを受け、施設環境改善を図るため、具体的な整備・拡充に向け検討を始めました。

### （2）でい工房花はなの活動

・平塚市内の団体との連携を得て、平塚市庁舎内の福祉ショップ「ありがとう」の活動に自主製品の出店や売り子のお手伝い等に職員と利用者が参加しました。少人数の参加でしたが、売り子も製品も花なりにも「出来た」という手ごたえを得ることが出来ました。

・活動や支援のあり方、またスペースの使い方も含め以前より継続課題となっていた件について、28年度実施に向け検討を始めました。職員全員による利用者全員への集団的対応から、より個別の状況に応じた細やかな対応を目指し、3グループに分かれ小グループでの活動体制を考え、準備を進めてきました。

### （3）ホーム花の活動

・毎日の生活の場と同時に安らぎの場です。生活リズムの整えを維持し、個々の利用者が落ち着ける空気感作りに配慮すると共に、日々変化する利用者の様子や健康状況の把握に努めました。

・利用者の1人が、誤嚥性肺炎により1ヶ月ほど入院し、退院後支援の状況が大きく変わりました。それにより、非常勤者による体制が困難になり、2カ月余りの間、必要により2人体制をとり対応に当たりました。今後に向けても加齢や病気等による支援の変化に応じた体制の課題は大きく、人的体制（内部の職員体制、および医師や看護師のバックアップ体制）については、緊急時と日常的なサポートとが必要になります。特に外部の機関の協力を得て体制を整えることが急務と考えています。

### （4）地域の中での花の活動の充実

・地域の中で、共に生きていくことを通して、地域との関係を深めていきたいと考えています。今年も金目地区の草刈り、盆踊りや福祉レクリエーション等の活動に参加しました。

今後も、関係団体、関係機関等との連携と連絡調整に努め、社会に開かれた施設を目指し、利用者へのサービスの向上に努めていきます。

#### (5) 支援のあり方の充実

・職員は専門職集団として利用者に対応出来るように、日常業務の中で役立つ日々の支援の仕方を学び深めていきたいと様々な職員研修に参加しました。その研修報告を会議で行う機会を設け、個人としても集団としても資質の向上を図りました。

・月1回山形医師を招いての勉強会は、ケースカンファレンスという形にて定着しました。ケースカンファレンスの進め方から普段の支援までを専門の医師が評価して下さるという貴重な勉強の機会となっています。次年度に向けても、より多くの職員がキャリアアップと障害者理解を深められるよう努めて行きたいと考えています。